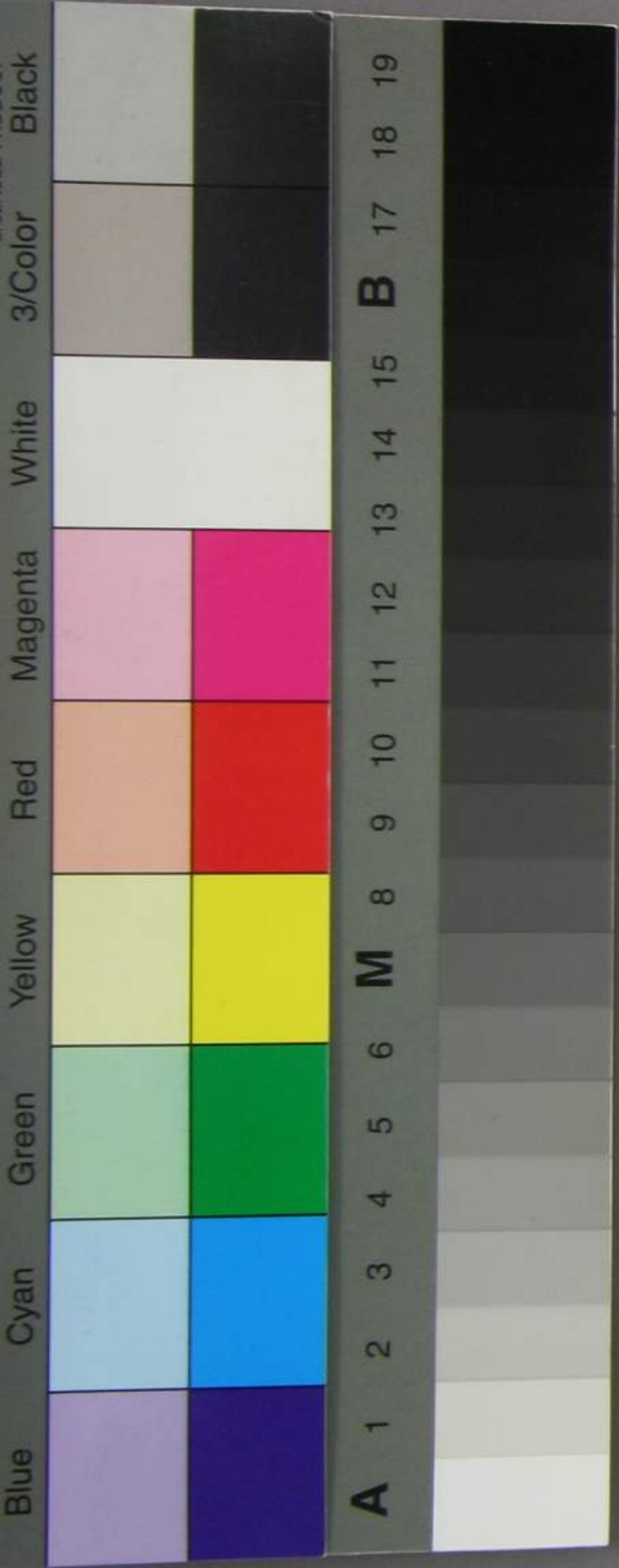


414
A 4068
1



小宮 曩キニ就任ニ際ニ製鐵事業ニ関スル前途
ノ方針ニ就キ技監等ト討議ヲ竭シ意見ヲ
開陳シ同時ニ其意見ノ實行上必要トスル
所ノ費額ヲ創立費追加豫算トシテ申請セリ
當時政府ハ此議、全部ヲ採用セラレ第十一
議會ニ提出スルノ手續ヲ為シタリト雖モ該議
會解散、為シ討議ニ至ラス後キ内閣交迭シ
即チ前内閣ニ向テ同一、要請ヲ為シ第十二
議會ニ向テ同一、追加豫算ヲ提出セシコトヲ

大正十一年四月
贈



求ノタルモ閣議ハ右費額中目下建設ニ從事シ
ツ、アル工場費ノ追加ノミヲ臨時議會ニ提出シ新
設ニ屬スル原料鑛山費并ニ若松築港補助
費ハ次期ノ通常議會ニ提出スルコトニ決定セ
リ其結果小官ノ要請シタル追加豫算ノ内六
百四拾七萬四千五拾六圓ハ遂ニ議會ノ協賛
ヲ經テ確定スルニ至レリト雖モ此事業ヲシテ
前途鞏固ナラシムルニ最モ必要ナル原料鑛山
費及若松築港補助費ハ次期ノ議會ニ向テ
之レヲ要求セサルヲ得サルニ至レリ茲ニ事業全

体ニ就テ更ニ前途ノ方針ヲ具申ニ裁定ヲ
請ハントス

一 原料鑛山ノ必要

曩キニ提出シタル意見書ニ於テ己ニ陳述シタ
ルカ如ク製鐵ノ原料タル鐵鑛石炭等ハ之ヲ
購入スルノ方針ヲ更テ自ラ之ヲ開採スルノ必要
ヲ認ムルナリ元來我國ニ於テハ鐵鑛ニ乏シカラ
スト雖モ採鑛ノ業ヲ營ムモノニ至テハ唯釜石鐵
山アルニ且該山ト雖モ目下ノ施設ハ唯自用ノ
鐵鑛ヲ採掘スルニ止マルヲ以テ製鐵所ニ原料

ヲ供給セント欲セハ更ニ數拾萬圓ヲ投資シテ
其設備ヲナサ、ルヲ得ス況ニヤ其他未開ノ鐵
山ニ於テオヤ又石炭ハ戦後其價益々騰貴シ
目下ノ價格ハ外國諸製鐵所ニ於テ消費ス
ルモノヨリ遙カニ高價ニシテ将来著シキ低落ヲ
望ムヘカラス且製鐵事業ニ於テハ恒ニ原料ノ性
質一定ニ變更ナキヲ要シ殊ニ鞍山爐ノ如キ
ハ所用石炭ノ性質ニ依テ其構造ヲ定ムヘキ
モノナルヲ以テ其築造ニ先チ原料石炭ヲ一
定スルコト最モ必要欵クヘカテサレモノナリトス又

仮リニ此等ノ原料ノ供給ヲ他ノ鑛業人ヲシ
テ計畫セシメ得ルトスルモ常ニ少數ノ鑛業人
ニ其供給ヲ占有セラレ将来ノ經濟上最モ
不利ナル結果ヲ生スヘキコト明カナリ彼ノ外
國ノ製鐵所カ務ノテ鐵山炭坑等ヲ所有
シ一ハ廉價ナル原料ヲ消費シ一ハ原料ノ
一定不變ナルコトヲ計ルモノ皆ナ此理由ニ依ル
モノナリ
右ノ理由ナルヲ以テ我カ製鐵所ニ於テモ速
カニ原料鑛山ヲ収得シ其開採ニ著手セザ

ルヘカラス而シテ其費額ハ物價騰貴及鑛山熱ノ熾ナル今日ニ於テハ概算參百六拾參萬貳千八百四拾五圓ヲ要シ之ヲ三十二年度乃至三十四年度ノ三々年度繼續費トシテ支出セラレシコトヲ請フ

二 若松築港補助費

製鐵事業ノ如キ原料及製品ノ運搬巨大ナルモノニ於テハ務メテ運搬ノ輕便ト最速トヲ圖ラサルヘカラス本所設立ノ地タル現況ニ於テモ經濟上便利ノ地ナリト雖モ目下若松

港ノ水深ハ十五尺内外ニ止マルヲ以テ大船ヲ出入セシムル能ハサルノ不利アリ目今若松築港會社ニ於テ其港口ヲ改良シ防波堤ヲ延長シ海底ヲ浚深シ水深ヲ二十尺トシ二千噸内外ノ船舶ヲシテ出入ヲ自在ナラシメントスルノ計畫ヲ立テ其工費百六拾萬圓ハ入港料ヲ以テ辨償スルノ方按ヲ立テタリ此工事竣功セハ製鐵所ニ利スル所最モ大ナリト雖モ所用ノ貨物ニ對シ會社豫定ノ入港料ヲ支辨スルトキハ其額一々年六萬圓以上ニ達シ事

業ノ擴張ト共ニ倍々其額ヲ増シ永遠ニ重
課ヲ負フヘキヲ以テ該會社ト交渉シ工事費ノ
内五拾萬圓ノ補助ヲ與フルトキハ其代價トシ
テ所用ノ貨物ハ總テ入港料ヲ課セサルコトニ
協議セリ目下金融必迫、折柄右ノ補助ハ該
會社ノ事業經營上一日又速ニ確定セシメサル
ヘカラス此補助費三十二年度以降事業ノ進
行ニ伴テ數々年ニ分割支給セントス

三 作業開始ノ方針

當所創立費ハ第十二議會ニ於テ決定セラレ

タル追加豫算額ヲ合シテ千五拾六萬九千八
百四拾九圓四拾錢ニ決定シタリ此費額タル歐
米各國ニ於テ現今行ハル、所ノ最新ノ機械
及設備ヲ完備スルニ足リ復タ欵漏アルコトナ
シ目下其竣功ノ敏速ナラシムコトヲ期シ所負ヲ
督勵シ晝夜其業ニ從事セシムト雖モ年割
額ニ制限アリ起業上亦最モ慎重ヲ要スル
ヲ以テ全工場ノ竣功ニ至テハ豫定ノ繼續年
限ヲ要スヘシ然リト雖モ明年ヨリ一部分竣功
ノ工場ヨリ漸次試製若クハ作業ヲ開始スル

コトヲ得ヘシ今其順序ノ大要ヲ左ニ擧クヘシ

一、製鉄高爐一基ハ来年度末ヨリ試製ニ

著手シ引續キ作業ヲ開始スルコトヲ

得ヘシ

二、製鋼工場ノ一部分ハ来年度中ニ竣功シ

同年度末若クハ三十三年度初ヨリ試製ニ

著手シ其成功ヲ俟テ直チニ作業ニ移

ルコトヲ得ヘシ

三、製品工場ノ一部分ハ三十三年度初ニ於テ

竣功スルヲ以テ直チニ試製ニ著手シ引續

キ作業ニ移ルコトヲ得ヘシ

四、鞍山工場及全工場ノ残部ハ悉ク三十

四年度中ニ竣功セシムヘシ

右ニ叙述シタルカ如ク来年度ニ於テ製鉄

高爐ノ試製ニ著手シ得ルヲ以テ前途作業

ノ方針ヲ熟考スルニ試製費ハ僅カニ参拾九

萬六千六百六拾圓ニ過キカルヲ以テ一ノ高爐ニ於

テ二ヶ月間試製スルトキハ其費用ヲ盡スヘシ

故ニ若シ全工場完備スルニアラサレハ作業ヲ開

始セサルモノトセハ逐次竣功スル所ノ工場モ皆

空シク作業ヲ休止セサルヲ得ス然ルニ錢材
ノ供給ハ一日モ忽諸ニ附スヘカラサルハ勿論職工
ノ熟練モ亦歲月ヲ要スヘキヲ以テ明年度
高爐ノ竣工ヲ俟テ其試製ニ引續キ作業ヲ
開始ニ引續キ他ノ工場モ同一ノ方法ヲ以テ
逐次其作業ニ移リ一ハ職工練習ノ用ニ
供シ一ハ錢材ノ需用ニ應セントス但シ全工場
完備以前ニ屬スル作業ハ主トシテ操業上ノ
不熟練ト原料ヲ購入セサルヘカラサルヲ以テ
利益ヲ得ルコト難カルヘシト雖モ務メテ損失

ナカラシムヘシ此ノ作業開始ニ要スル運轉資
金及特別會計ニ係ル規程ハ別ニ提出ス
ヘシ

四 前途ノ好望

以上陳述シタルカ如ク工場ノ設備ヲ完全
ニシ原料鑛山ヲ所有シ且若松港ヲ改良シ
運搬ノ途ヲ便ナラシムル等諸般ノ施設完備
スルニ於テハ仮リニ作業ノ當初職工不熟練
等ノ為メ充分ナル収益ヲ得サルモ一々年八拾
萬圓以上ノ益金ヲ生スヘク事業ノ熟練ニ

從ラ其利益ハ倍々増加シ益金百六七拾萬
圓ニ達スルコトハ蓋シ工場竣功後五六年ヲ俟
サルヘシ故ニ製鐵所費ニ要スル事業公債ノ
元利ヲ支辨シ得ルノ目途確實ナルヲ保證シ
得ヘシ

製鐵所費ハ既定ノ創立費及今回提出ノ原
料鑛山費築港補助費ヲ加ヘ其總資金千
四百七拾萬貳千六百九拾四圓四拾錢トナリ是レ
ニ運轉資金ヲ加算スレハ千九百萬圓ノ巨額
ニ達スト雖モ之ヲ現今海外ニ於ケル該業創

設費ニ以スレハ尚著シク節約シタルモノニシテ必
竟斯事業ヲシテ其施設ヲ完全ニシ其基礎
ヲ鞏固ニシ國家必要ノ鐵材ヲ供給シ得ル
ノミナラス海外ノ競争ニ對抗セントセハ實ニ已
ヲ得サルノ費額ナリトス況ンヤ此ノ投資ハ將來
其利益ヨリ償還シ得ルノ目途正確ナル才
ヤ茲ニ意見ヲ具シ裁定ヲ請フ

明治三十一年七月廿日

製鐵所長官和田維四郎

農商務大臣大石正巳殿

414
A 403
2

大正十一年四月
農務部寄附

今般製鐵所費トシテ要求シタル豫算即チ原料鑛山
費若松築港補助費及運轉資金ハ皆該事業創設
ニ連帶スルモノニシテ其支出ヲ要スル理由豫算説明書及ビ
製鐵所長官ノ意見書ニ詳述セルカ如ク之ヲ今日ニ於テ決定
セサレバ製鐵所ノ方針一定セス後テ将来非常ナル不利ヲ生
スベシ

一、鑛山開採ノ事業ハ時日ヲ要スルヲ以テ其創業ヨリ少クモ
三ヶ年ヲ経カレバ充分ナル量教ヲ採掘スルコト能ハス又一時
原料ヲ民間ヨリ購入セントスルモ民業中其需求ニ應ジ
得ルモノナク且攸リニ之ヲ供給シ得ルノ施設ヲ為サシムルモ
ノトスルモ其價格高價ニシテ製鐵所ハ巨額ノ損失ヲ
受クヘシ左ニ其損益計算ヲ示ス

第一表

原料に關スル損益表

製鐵所ニ於テ銑鐵拾貳萬噸ヲ製出シ是ヨリ鋼材九萬噸ヲ製造スルニ左ノ原料ヲ要ス

一、鐵 鑛	一ヶ年	二四〇、〇〇〇噸	時價 四〇〇〇
二、石 灰	全	六〇、〇〇〇	一、〇〇〇
三、コークス用石炭	全	三七六、六一七	六、〇〇〇
四、瓦斯質石炭	全	六九、八一二	五、〇〇〇
五、鏡 鐵	(當分外國品)	五、一七五	六、〇〇〇
六、フエロマンガ	(當分外國品)	三、八五八	一、二〇〇

原料鑛山ヲ購入シ自ラ採掘スルトキハ品質一定シ供給安全ナルノミナラス其原價ハ左ノ如ク低減スベシ

鐵鑛 老噸付五圓四拾錢 石炭 老噸付叁圓

右ノ比較ニ依リ損益ヲ計算スルニ鐵鑛及コークス用石炭ノミヲ自山ヨリ採掘スルモノトシ左ノ利益ヲ生スベシ

コークス用石炭時價	一ヶ年	二、二五九、七〇二圓
コークス用石炭 <small>自山採掘費</small>	一ヶ年	一、一三九、八五一圓
差 即チ利益		一、一一九、八五一圓
鐵鑛 時價	一ヶ年	一、六八〇、〇〇〇圓
鐵鑛 <small>自山採掘費</small>	一ヶ年	一、二九六、〇〇〇圓
差 即チ利益		三、八四、〇〇〇圓
合計利益		一、五一三、八五一圓

二、若松築港ハ製鐵所ノ為メ最モ必要ナル工事ナルモ其補助ヲ決定セザレハ該會社ニ於テ起工スルコト能ハス

三、運轉資金ハ工場ノ竣工ニ後テ之ヲ要スベキハ論ヲ俟タス又其作業ヲ延期スルコトハ該事業創立ノ趣旨ニ及スルノミナラス機械

及職工ノ熟習上必要ナリトス

右ノ理由ナルニ由リ此三費額ハ三十二年度ヨリ繼續費トシテ支出スルコトヲ決定シ製鐵事業前途ノ方針ヲ確定センコトヲ要ス此費額年割額ハ第二表ノ如クニシテ其財源ハ事業公債ニ索ムヘシ

第二表

三十二年度ヨリ繼續費トシテ支出要求額

科目	三十二年度	三十三年度	三十四年度	三十五年度	三十六年度	合計
製鐵原料	一九九七、三九八〇〇	一四九、三一二〇〇	一四四、一三五〇〇	〇	〇	三、六三三、八四五〇
鑛山費	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇〇
若松築港補助費	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇〇
据置運轉資本支出年割額	五〇〇、〇〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	〇	八〇〇、〇〇〇〇〇
合計	二、五九七、三九八〇〇	三、〇九一、三一二〇〇	一、七四一、三五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	八、六三三、八四五〇

然レトモ三十二年度ハ費途多端ニシテ且民間ノ經濟必迫ナルヲ以テ到底右公債ヲ募集スルコト能ハサルトキハ豫算年割額

ヲ改メ其三十二年度ニ属スル支出ヲ第三表、如ク減スヘシ

第三表

科目	三十二年度	三十三年度	三十四年度	三十五年度	三十六年度	合計
製鐵原料	三〇〇、〇〇〇〇〇	三二八、七二〇〇〇	一、〇八一、三五〇〇〇	〇	〇	三、六三三、八四五〇
鑛山費	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇〇
若松築港補助費	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇〇
据置運轉資本支出年割額	一〇〇、〇〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	〇	四〇〇、〇〇〇〇〇
合計	五〇〇、〇〇〇〇〇	五七八、七二〇〇〇	一、七四一、三五〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇〇	八、六三三、八四五〇

尚此減額モ別段ノ支出ヲ為スベキ餘地ナキトキハ不得止既定創立費三十二年度分ヨリ右ノ金額ヲ流用スヘシ其方法ハ一方ニ於テハ金回要求ノ原料鑛山費築港補助費及運轉資金合計五拾萬圓ノ支出ヲ要スト雖モ他ノ一方ニ於テ既定ノ創立費中ヨリ同一ノ金額ヲ次年度ニ繰越スノ手段ヲ採ルヘシ即チ第四表及第五表ニ之ヲ示ス

第四表

三十二年 度 既 定 製 鐵 所 費

科 目	既 定 額	本 廠 在 内 要 求 額 三十二年 度 既 定 額 中 ヨリ 繰 越 ス 金 額	三十二年 度 既 定 額 中 ヨリ 繰 越 ス 金 額	計
事 務 費	一六二,四三八	。	七〇,〇〇〇	二三二,四三八
工 場 費	一,八九四,六一〇	五〇,〇〇〇	。	二,三九四,六一〇
試 製 費	二八八,一二〇	。	。	二八八,一二〇
合 計	二,三四五,一六八	五〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	二,九一五,一六八

第五表

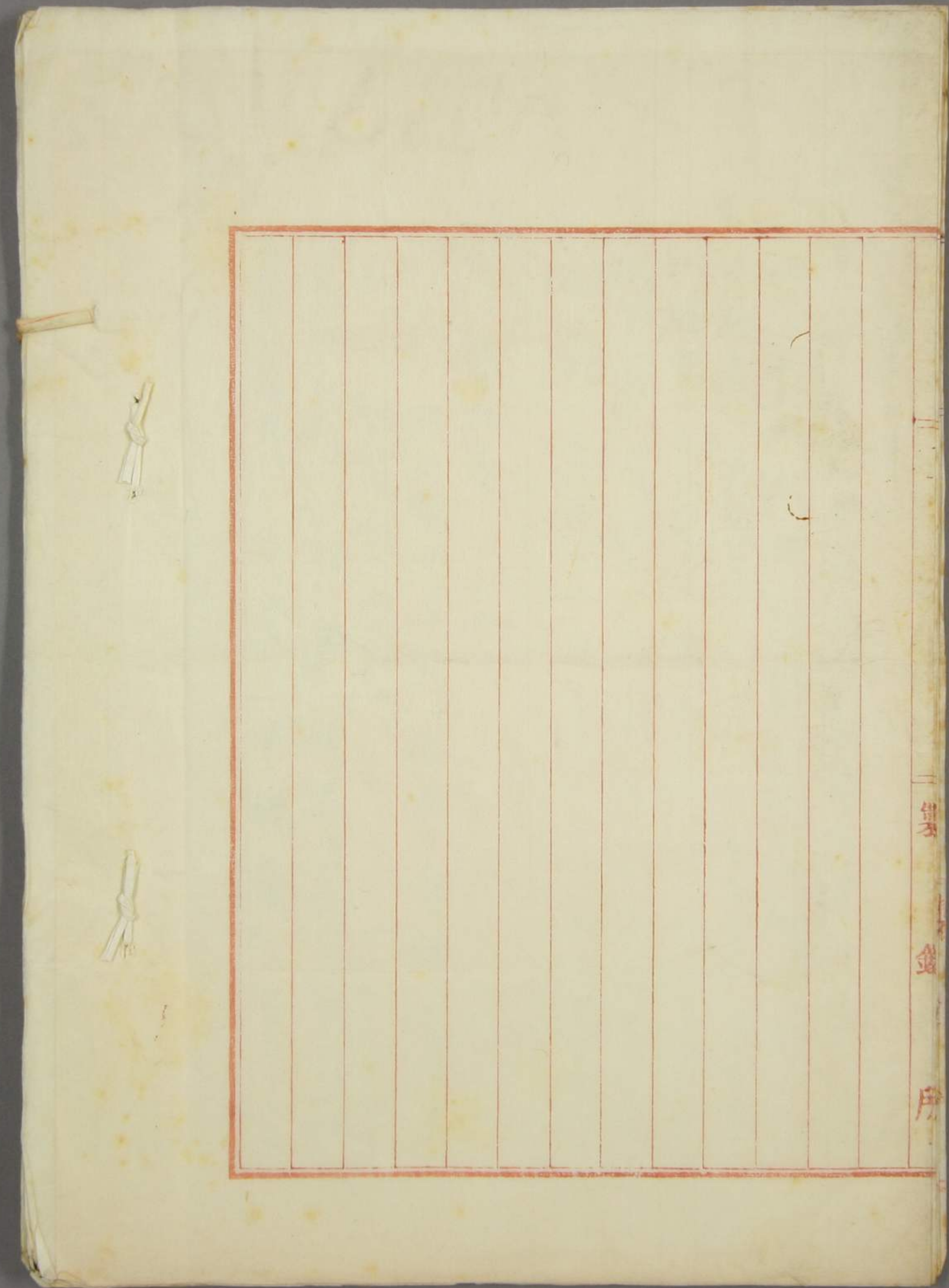
既 定 額 中 ヨリ 新 要 求 ノ 費 額 ニ 充 テ
剩 餘 ス へ キ 項 目

科 目	新 要 求 ノ 費 額	三十二年 度 既 定 額 中 ヨリ 繰 越 ス 金 額	工 場 費	計
製 鐵 原 料 鑛 山 費	三〇〇,〇〇〇	。	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇

若松築港補助費	一〇〇,〇〇〇	。	。	一〇〇,〇〇〇
据置運轉資本金	一〇〇,〇〇〇	。	。	一〇〇,〇〇〇
合 計	五〇〇,〇〇〇	。	。	五〇〇,〇〇〇

事 務 費
試 製 費

製 鐵 所



雙

鏡

屏